

令和6年度
第2回 苫小牧市航空機騒音対策協議会
会議録

令和6年10月8日（火）

午後6時30分

JFEリサイクルプラザ苫小牧 2階会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 副市長挨拶

4 議 題

(1) 報告事項

ア 米軍再編に係る千歳基地への訓練移転について

① 「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転」に関する主な経過について 【資料 1-1】

② 米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地等への訓練移転について 【資料 1-2】

③ 「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会」

での要請事項及び回答について 【資料 1-3】

④ 令和6年度日米共同統合演習（実動演習）について 【資料 1-4】

⑤ 令和6年度日米共同統合演習（実動演習）に関する要請事項について 【資料 1-5】

⑥ 米軍再編に係る千歳基地への訓練移転対応について 【資料 1-6】

⑦ 米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に伴う騒音測定地点について 【資料 1-7】

⑧ 米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について 【資料 1-8】

イ 米軍再編に伴う米軍機訓練移転について

① 米軍再編に係る各基地への訓練移転について 【資料 2-1】

② 沖縄県の負担軽減調査結果について 【資料 2-2】

5 その他

○ 協議会委員 ※敬称略

出席者 (14名)

副会長	松重 茂雄	委員	長井 和宏	委員	星野 岳夫
〃	三海 幸彦	〃	越川 慶一	〃	竹田 秀泰
委員	丹治 秀寛	〃	久保 智揮	〃	牧田 俊之
〃	齋藤 謙吉	〃	永谷 俊文	〃	米谷 一夫
〃	川上 光博	〃	山端 豊城		

欠席者 (8名)

会長	丹羽 秀則	委員	千葉 英明	委員	工藤 幾子
委員	丹治 有貴	〃	荒木 孝司	〃	松井 良明
〃	多田 嘉弘	〃	小倉 巖		

○ 事務局 出席者 (12名)

副市長		木村 淳			
総合政策部	部長	町田 雅人	環境衛生部	部長	石黒 幸人
まちづくり推進室	室長	神保 英士	ゼロカーボン推進室	室長	櫻井 理博
空港政策課	課長	伊藤 貴文	〃	副主幹	齋藤 和之
〃	主査	佐藤 隼也	〃	主査	田村 一也
〃	〃	仲林 はつみ	〃	技師	田中 恵実香
〃	〃	木村 賀津彦			

令和6年度 第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会 会議録

1 開会

◇事務局

皆様お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

只今から、令和6年度第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております苫小牧市空港政策課の伊藤と申します。よろしくお願
いいたします。

2 会長挨拶

◇事務局

はじめに、本日は丹羽会長が欠席されておりますことから、規約に基づきまして、松重
副会長に議長を務めていただきます。

それでは、開催にあたりまして、松重副会長からご挨拶をいただきます。

よろしくお願いいたします。

◆副会長

皆様、お晩でございます。副会長の松重でございます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、事務局からありましたとおり、丹羽会長が欠席となりますので、職務代理を努
めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて先週ですけれども、10月3日と4日、要望活動として、東京に行ってまいりまし
た。9月の道内要望に続いてとなりますが、国土交通省や防衛省を訪問し、騒音対策や安
全対策について、しっかりお願いをしてきたところでございます。

後日、事務局から報告があると思いますが、まずはご参加いただいた皆様、大変お疲れ
様でございました。

そのような中で早速、21日から米軍再編の訓練移転が始まるということで、本日、本
協議会を開催されることとなりました。

千歳基地への訓練移転は13回目、これまで12回は無事終了しているところでご
ざいますが、本日は訓練内容や市の対応について、説明を聞き、皆様と確認してまいりた
いと考えております。

本日はよろしくお願いいたします。

3 副市長挨拶

◇事務局

ありがとうございました。

続きまして、木村副市長からご挨拶申し上げます。

◇副市長

皆様お晩でございます。副市長の木村でございます。

本日は、お仕事でお疲れのところ、また急な招集にも関わらず、こうしてお集りいただきまして、誠にありがとうございます。

協議会の皆様方におかれましては、新千歳空港、そして千歳飛行場を巡る様々な課題に対しまして、常日頃から、特段なるご協力をいただいておりますことに、この場をお借りし、厚く御礼を申し上げたいと思います。

また、先ほど松重副会長からお話がありましたとおり、9月の道内要望に引き続き、先週には東京要望として、国土交通省や防衛省などを訪問し、要望書の提出や意見交換をしていただいたところであります。

要望活動の結果につきましては、次回の本協議会でご報告させていただきますが、地域の実情を訴える非常に良い機会となり、ご参加いただきました委員の皆様にご感謝申し上げる次第です。誠にありがとうございました。

さて、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転につきましては、9月27日に北海道防衛局におきまして、連絡協議会が開催され、訓練移転等の通知がありましたので、本協議会におきましてご説明をいたしたく、お集まりいただいたところでございます。

なお、この連絡協議会におきましては、北海道・千歳市・苫小牧市から、協定等の遵守や訓練の安全管理などについて要請を行ってきたところであります。

また、訓練の概要や市の対応等につきましては、航路下であります3地区にチラシを全戸配布をし、皆様に周知する予定となっております。

今後におきましても、安全・安心に万全を期すため、市の体制を整えるなど、皆様の不安をできるだけ払拭できるよう、最大限の努力をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

◇事務局

この後につきましては、座って進めさせていただきます。

次に、植苗地区2名の欠員に伴い、新たに推薦されました方々をご紹介します。

川上光博委員でございます。(川上委員：よろしくお願いいたします。)

同じく、長井和宏委員でございます。(長井委員：よろしくお願いいたします。)

◇事務局

なお、本日は丹羽会長のほか、丹治有貴委員、多田委員、千葉委員、荒木委員、小倉委員、工藤委員、松井委員から本日所用のため欠席との連絡を受けております。

次に、資料の確認でございますが、委員の皆様には資料一式を事前に郵送させていただいておりますが、本日ご持参いただいていない方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは議事進行につきましては、松重副会長に進めていただきます。

なお、議事録作成の関係上、発言に際しましてはマイクのご使用をお願いいたします。

また、マイク使用後はスイッチをお切りくださいますようお願いいたします。

それでは、松重副会長、よろしくをお願いいたします。

4 議題

◆副会長

それでは、早速でございますが、議事に入らせていただきたいと思います。

報告事項については、アとイをそれぞれ分けて説明し、その都度、ご質問ご意見をお受けしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは（１）報告事項アについて、事務局から説明をお願いします。

◇事務局

報告事項のア、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転につきまして、ご説明いたします。失礼ですが、座って説明をさせていただきます。

はじめに、１ページの資料１－１をご覧ください。こちらは、千歳基地における米軍再編に係る訓練移転に関する主な経過について記載しております。

内容につきましては、この後の資料でご説明いたします。

次に、２ページの資料１－２をご覧ください。こちらは、９月２６日に防衛省より公表されました、米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地等への訓練移転についての詳細通知でございます。

１の三沢飛行場から千歳基地への訓練移転につきまして、訓練期間は１０月２１日から１１月１日、使用基地は千歳基地、使用空域は北海道西方空域及び三沢東方空域、訓練内容は戦闘機戦闘訓練等、参加部隊は米軍が三沢の第３５戦闘航空団、航空自衛隊が千歳の第２航空団、参加規模はタイプⅡで、米軍はＦ－１６が１２機程度で人員が１８０名程度、航空自衛隊はＦ－１５が１２機程度でございます。

なお、通知にはございませんが、１０月２９日と３０日は、夜間飛行を実施する予定と伺っております。

また、２番目以降は他基地の訓練のため、説明を省略させていただきます。

次に、４ページの資料１－３をご覧ください。こちらは、北海道・千歳市・苫小牧市の三者で構成しております、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡会議としての要請及び本市の個別要請に対する北海道防衛局の回答でございますが、順にご説明させていただきます。

はじめに、連絡会議としての要請につきましては、8点ございます。

1つ目が、土曜日・日曜日及び早朝・深夜の訓練を実施しないことなど、これまでの両市との協議経過を踏まえ、協定の内容を確実に遵守すること。また、米軍帰還に際しても、土曜日・日曜日及び早朝・深夜に飛行することのないよう配慮すること。

2つ目が、自衛隊が通常使用している訓練空域や飛行経路、飛行方法によること。

こちらはまとめた回答となっておりますが、千歳基地における訓練の実施に当たり、土日及び早朝・深夜における訓練はもとより、訓練空域、飛行経路及び飛行方法などについても、航空自衛隊と同様の態様となります。

また、協定についても、平成19年1月に千歳市及び苫小牧市と締結した、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する協定書の内容を遵守するとともに、これまでの関係自治体との協議・確認事項を踏まえ、訓練移転を実施してまいります。

また、米軍帰還の際の土日及び早朝・深夜の飛行につきましても、地元を配慮するよう、米側に求めてまいりますとの回答でございます。

3つ目、米軍人の外出時等の対応など本道滞在中における規律の維持に万全の対応を行うことにつきましては、米軍人の本道滞在中における北海道防衛局の対応については、前回と同様、必要に応じてサポートを行い、トラブルの未然防止に努めてまいります。規律の維持についても、防衛省として平素から米側に対して、隊員の教育や綱紀粛正の徹底を図る等、様々なレベルから申入れを行っており、改めて当局からも米軍に申入れを行ってまいりますとの回答でございます。

4つ目、訓練期間中は、貴局において騒音測定を実施するとともに、できる限り早期に結果を公表することにつきましては、訓練期間中における騒音測定については、これまでと同様に実施し、騒音測定結果についても、速やかに公表したいと考えていますとの回答でございます。

続きまして、5ページをご覧ください。

5つ目、訓練の安全管理及び参加する戦闘機の整備・点検など安全確保に万全を期すことにつきましては、航空機の運用に当たっては、安全の確保が大前提であり、航空機による事故は地域の方々に不安を与える、あってはならないものであると認識しています。

当局としては、訓練部隊に対し、航空機の点検・整備の確実な実施や安全管理に万全を期すよう求めてまいりますとの回答でございます。

6つ目、説明会や米軍ブリーフィング等の開催など、訓練に関する情報を住民、自治体、報道機関に詳細に提供することにつきましては、当局としては、地元の皆様への情報提供については、大変重要と認識していることから、米軍によるブリーフィングの開催を求めているところです。

また、当局としても説明会の開催を予定しているところです。

関係自治体等への情報提供については、引き続きお知らせできる情報が得られ次第、迅速かつ確実な情報提供に努めてまいりますとの回答でございます。

7つ目、訓練終了後の「検証」を必ず行うことにつきましては、訓練終了後における訓練の状況及び騒音測定結果に係る「検証」については、これまでと同様、可能な限り対応してまいりたいと考えていますとの回答でございます。

最後に8つ目、これまで実施された訓練移転によって、沖縄の負担がどの程度軽減されたのか、期限を決めて目に見える形で検証することにつきましては、米軍再編に係る訓練移転は、嘉手納飛行場における航空機による訓練だけでなく、三沢及び岩国飛行場の航空機が嘉手納飛行場に飛来して実施している訓練も移転の対象としており、嘉手納飛行場における更なる騒音軽減に資するものです。

国内・国外の訓練移転を積み重ねることにより、嘉手納飛行場の周辺住民の方々のご負担を軽減できるものと考えています。

他方、嘉手納飛行場の運用の全てを把握しているわけではなく、航空機訓練移転による負担軽減の効果を定量的にお示しすることは困難であることを御理解願いますとの回答でございます。

以上8点が連絡会議としての要請に対する回答となります。

続きまして、6ページをご覧ください。苫小牧市の個別要請といたしまして、2点ございます。

1つ目、米軍外来機における飛来訓練等の抑制など、沖縄県の方々負担軽減を実感できるように努めることにつきましては、日米両国は、航空機の訓練移転を行う期間中、沖縄の飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとしており、防衛省としても、訓練移転の都度、米側に対し配慮要請を行っております。

その上で、嘉手納飛行場に所属する航空機の訓練移転について、これまでに、計52回実施したところであり、直近の訓練移転では、本年6月に実施され、F-22戦闘機10機等が、約2週間沖縄を離れることになりました。

訓練移転により、沖縄で行われる訓練の一部が本土等に移転されたことで、沖縄における駐留及び訓練時間が軽減されることから、一定程度の負担が軽減されていると考えています。

防衛省としては、嘉手納飛行場の騒音実態の把握に継続的に努めており、実態を踏まえて、米軍に対し、騒音規制措置の遵守や、地元の重要な行事に配慮するよう申入れを行い、さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る各種施策を通じて、周辺住民の方々のご負担を可能な限り軽減できるよう努めるなどの措置を講じているところです。

いずれにしましても、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場における騒音の軽減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、今後も訓練移転を着実に積み重ねるなど、全力を挙げて取り組んでまいりますとの回答でございます。

2つ目、千歳基地では、航空機からの部品落下が繰り返し発生していることから、米軍機を含む機体の整備、点検の強化を図るとともに、事故が発生した場合は、原因究明及び再発防止策について速やかに情報提供を行うことにつきましては、はじめに自衛隊につ

いてでございますが、航空機による事故等により、基地周辺住民の方々に不安を与えることがあってはならないのは当然です。

防衛省・自衛隊としては、機体の整備について、飛行前後の点検のみならず、千歳基地、補給処等において定期的な整備の点検を行い、飛行安全及び品質管理の上で重要な構成部品については、定期的に交換を行う等、機体の安全性を確保する上で必要な措置を講じています。

さらに、隊員の教育においては、パイロットの安全教育に万全を期すことはもとより、整備員についても、安全教育や飛行前後の機体の整備点検等を通じ、安全確保に関する指導を行っています。

7ページに続きまして、防衛省・自衛隊としましては、地域に与える影響を最小限に留めるよう、引き続き自衛隊機の安全管理の徹底を行い、部品紛失・事故等の防止に引き続き万全を期してまいります。

また、万一、事故等が発生した場合には、これまでと同様、地元自治体等への情報提供について、適切に対応してまいりますとの回答でございます。

次に、米軍についてでございますが、米軍機の飛行に際しては、安全の確保が大前提であり、引き続き米側に対し、安全面に最大限の配慮を払うとともに、地域住民に与える影響を最小限にとどめるよう求めていく考えです。

なお、千歳基地での訓練移転において米軍戦闘機や輸送機の事故が発生した場合には、その原因及び今後の対応について情報が得られ次第、苫小牧市を含む関係自治体に迅速かつ確実に情報提供を行うなど、適切に対応してまいりますとの回答でございます。

以上が、苫小牧市の個別要請でございます。

次に8ページの資料1-4をご覧ください。こちらは、9月26日に統合幕僚監部より公表されました、令和6年度日米共同統合演習「Keen Sword 25」の通知でございます。

先ほどご説明いたしました訓練移転につきましては、三沢飛行場から千歳基地に訓練移転として展開した上で訓練を実施いたしますが、同じ時期に実施するこちらの日米共同統合演習にも参加することとしております。

次に、13ページをご覧ください。千歳基地関係分につきましては、期間は10月23日から11月1日まで、参加部隊は右側に掲載しておりますが、訓練移転で参加した米軍F-16が12機、航空自衛隊のF-15が14機となっております。

次に、14ページの資料1-5をご覧ください。北海道防衛局及び第2航空団に対し、記載の5項目について、要請を行っております。

次に、15ページの資料1-6をご覧ください。こちらは、皆様への周知や連絡体制などの対応手順について、それぞれ訓練開始前、訓練期間中、訓練終了後に分けて記載しております。

なお、訓練開始前における、皆様への周知といたしましては、市ホームページや新聞の

市役所だよりへの掲載のほか、航路下地域の周知チラシを全戸配布いたします。

内容につきましては、16ページに記載のとおりでございますが、訓練の概要や訓練情報、市の対応について掲載しており、植苗・美沢地区は本日10月8日から10日に、沼ノ端・勇払地区は10月11日に配布する予定となっております。

次に、17ページの資料1-7をご覧ください。こちらは、訓練移転に伴う騒音測定地点でございますが、常時測定局は本市が6局、北海道が9局、北海道防衛局が1局、臨時測定地点は本市、北海道防衛局ともに3局で、合計22局で騒音測定を行う予定でございます。

なお、市の騒音測定結果の速報値につきましては、訓練実施の翌日に市ホームページで公表する予定でございます。

最後に、18ページから24ページの資料1-8をご覧ください。こちらは米軍再編に係る各基地の訓練移転経過をまとめたものでございますので、後ほどご参照願います。

報告事項アの説明は以上でございますが、この度の訓練移転の実施にあたりまして、米軍ブリーフィング及び北海道防衛局による説明会が、10月21日に行われる予定となっております。

本来でありますと、本協議会から3名程度ご参加いただいているところではございますが、会場の都合上、苫小牧側からの出席者が5名までと案内されておりますので、今回は本協議会を代表いたしまして、松重副会長にご参加いただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

◆副会長

ただいま説明のありました、報告事項アについて、ご質問・ご意見等はございませんか。

どなたかございませんか。

ご質問がなければ、続いてイについて説明をしていただいてもよろしいでしょうか。それでは、続いて報告事項イについて、事務局から説明をお願いいたします。

◇事務局

空港政策課の佐藤と申します。座って説明させていただきます。

それでは、報告事項のイ、米軍再編に伴う米軍機訓練移転についてご説明いたします。

25ページから27ページの資料2-1をご覧ください。こちらは5月の本協議会以降に通知されました、訓練移転に関する訓練計画概要等でございます。

25ページには、嘉手納飛行場及び三沢飛行場からグアム等へ、26ページには、三沢飛行場から米国アラスカ州へ、27ページには岩国飛行場及び嘉手納飛行場から新田原基地への訓練移転について、それぞれ通知されたものであり、内容につきましては記載の

とおりになっておりますのでご参照ください。

次に、28ページの資料2-2をご覧ください。こちらは、沖縄県の負担軽減調査結果でございます、嘉手納飛行場に隣接しております沖縄市、嘉手納町、北谷町から回答を得たものでございます。

照会項目(2)の、令和5年度の訓練移転実施により、負担が軽減されたと考えるかとの質問に対する主な回答につきましては、沖縄市からは、各航空機騒音測定局における環境基準の超過日数は418日で、苦情件数487件とともに過去最高となり、訓練移転による負担軽減がなかなか実感できない状況にある。

続いて嘉手納町からは、F-15の退役に伴うローテーション配備により、F-35やF-15Eなどが飛来した影響もあり、依然として大きな負担を強いられている。

最後に北谷町からは、前年に比べ騒音発生回数は2%増加、100デシベル以上の騒音も約41%増加しており、負担軽減されていないとの回答がございました。

また、29ページには、嘉手納飛行場における外来機の離着陸等状況を掲載しております。

私からは以上でございます。

◆副会長

ただいま説明がありました、報告事項イにつきまして、ご質問・ご意見はございませんか。

ご質問がなければ、最後のその他に進んでよろしいでしょうか。

イについて、ご意見やご質問はございませんか。

A委員。

◆A委員

本来の目的がどこに行ったのかなと思って、嘉手納の負担軽減をするために日本全国で訓練移転をしたのですが、ますます訓練回数も多いし、騒音も多いということであれば、最初の趣旨から大分外れていっているのかなと。この数字だけ見たらです。

もう少し、十何年以上も各地で受け入れているわけですがけれども、沖縄の負担軽減はこの数字を見る限り、なっていないのかなと思って見させていただきました。

今後もうこういうふうが増えていくようであれば、日本全国で負担軽減をしようということで始まったこの日米訓練なのですが、どうなのかなと思って今、質問します。

◆副会長

事務局、お願いします。

◇事務局

沖縄の負担軽減につきまして、ご質問がございました。

この負担軽減の調査につきましては、毎年、夏頃に行っておりまして、訓練移転が始まってから調査を開始しております。

委員がおっしゃったように、訓練移転はやってもらっているのだけれども、なかなか軽減されている実感がないという答えが、毎年のように来ている状況です。

それはなぜかと言うと、沖縄から他基地に訓練は行っているのだけれども、その代わりに外来機と言われる、国外や国内から違う戦闘機がやって来るのだと。

訓練移転はされているのだけれども、違うところからまた来るため、住んでいる人にとっては騒音軽減の実感がないということで毎回、回答があるわけです。

それを踏まえまして、苫小牧市として、個別の要請にもありますように、外来機の抑制をしてくださいというところで、これはずっと国に対して求め続けているわけですが、なかなか実感ができないと言ったところです。

この間、要望活動も実施しましたが、その際にも北海道防衛局、防衛本省にも同じようなお話をさせていただいていますけれども、今回は岩倉市長が平成18年にこの訓練移転を受け入れてから、千歳基地で13回目という訓練移転でございますので、今後も訓練を受け入れつつ、国に対してはしっかりと求めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆副会長

回答、よろしいでしょうか。

◆A委員

はい。

◆副会長

他にございませんでしょうか。

なければ、最後のその他にいきたいと思いますけれども。

その他として、事務局から何かございますか。

◇事務局

ありません。

◆副会長

その他になれば、私から1つ提案したいと思いますが、よろしいでしょうか。

米軍再編訓練については、沖縄の負担軽減などを理由に、市長が受入れたものであ

り、訓練が行われるたびに、本協議会で市から説明がされております。

千歳基地では、平成20年2月から行われており、今回で13回目となりますが、過去12回の訓練においては、大きな事故や事件などもなく、無事終了しているところです。

つきましては、今後特別なことがない限り、先日の日本・ドイツ・スペインの共同訓練のように、本協議会は開催をせずに、市から委員の皆様へ文書で訓練に係る資料を送付し、春と秋どちらか近い方の本協議会で訓練結果を報告してもらおうよう、簡素化してはどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

B委員。

◆B委員

これまで、平成20年から行ってきた米軍の共同訓練に対する私どもの対応だったのですが、当初やはり一番懸念したと言いますか、米軍機が来ることによって、騒音レベルが上がるのではないかということが、やはり一番懸念されたのですけれども。

これまでのデータを見させていただいても、だいたい従来通り、平常通りということで、特に訓練によって騒音レベルが大きく上がったケースというのは今までなかった。

そういうことであれば、今、副会長から言われたように、会議そのもののあり方を簡素化してみるということも、私は良いのかなと思ひまして、賛同の意見を述べさせていただきます。

◆副会長

ありがとうございます。

事務局、何かありますか。

◇事務局

もし今、そのようなことで決まるとすれば、文書でお渡しはしますけれども、不明な点等がございましたら何なりとご連絡をいただければ、私どもがお伺いしてきちんと説明をさせていただきたいと思ひますので、そのような対応を考えています。

以上でございます。

◆副会長

その他の意見はございませんか。

C委員、どうぞ。

◆C委員

ちょっとお聞きしたいのですが、ブリーフィングの対応なのですけれども、開催をし

ないとなると全部会長に一任するという形で進めてという形になりますでしょうか。

◇事務局

そうですね、会長にまずお話をさせていただいて、今回はどうしますかというようなことで伺った後に、皆様に結果を報告をするという形になろうかと思えます。

その他のやり方があるのであれば、また考えますけれども、今はそのように考えています。

◆C委員

今回は全体で5人ということで、うちの会からは1人ですけれども、従来型に戻った時についても、会長に一任で1名参加という形になりますでしょうか。

◇事務局

例えば、5人ではなく広がった場合、この会で3名ということであれば、会長、副会長にご相談をしたうえで決めていきたいと思っています。

◆副会長

よろしいでしょうか。

◆C委員

はい。

◆副会長

ありがとうございます。他にご意見ございませんか。

提案にご賛同をいただけますか。よろしいでしょうか。

◆委員一同

(「はい。」という声あり)

◆副会長

ありがとうございます。

それでは他に、ご意見、その他ございませんか。全般でも構いません。

自由に質問していただける機会は協議会の回数からも少ないので、お聞きしたいことがあれば、自分が理解できるように質問していただければと思います。

よろしいでしょうか、ありませんか。

ないようなので、それでは今後、特別なことがない限り、委員の皆様には市から文書

で訓練に係る資料を送付し、報告については、春または秋の本協議会で行っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

6 閉会

◆副会長

それでは、これを持ちまして令和6年度第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会を終了いたします。

皆様、大変お疲れ様でした。

— 終 了 —